

豊中市 PTA 連合協議会と豊中市教育委員会と情報交換会 議事概要

開催日時：7月21日（火）19時～20時10分

開催場所：豊中市役所第2庁舎3階会議室

出席者：（豊中市PTA連合協議会（以下、「連P」という））

吉田会長（庄内さくら）、藤井会長代行（四中）、坂本会長代行（新田南）、高橋会計（豊島西）、町田広報委員長（上野）、西田広報副委員長（桜井谷）、山本副会長会委員長（十四中）、松田生活安全委員長（十一中）、三浦生活安全副委員長（庄内西）、瀬川副会長（豊島北）

（豊中市教育委員会（以下、「市教委」という））

小野事務局長、道上教育監、大澤課長、岸田主幹、佐々本主査

○情報交換会次第

1. 吉田PTA連合協議会会長あいさつ

吉田連P会長から、挨拶があった。

2. 道上教育監あいさつ

道上教育監から、挨拶があった。

3. 自己紹介

市教委から、順番に挨拶があり、引き続き、出席のあった連P役員から、自己紹介があった。

4. 今後の学校行事について（教育委員会から説明）

道上教育監から、令和2年6月30日付市教委名で豊中市立小中学校保護者向けに配布された文書について、以下のとおり説明があった。

- ・6月30日（火）に（臨時の）校長会議を開き、実施の可否について議論を行った。昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大状況等に鑑み、修学旅行等宿泊を伴う行事は中止することとした。
- ・今回の中止の判断にあたっては、学校側から、今後の授業や修学旅行等を含む行事の進め方について相談があり、特に修学旅行の実施時期や、現場の下見、宿泊施設等のキャンセル等から、早急に判断する必要が生じた。
- ・4月から月2・3回程度校長会を開催しているが、今後の見通しとして、修学旅行等の宿泊を伴う行事の開催は現時点では厳しい旨、教育委員会から各校長に口頭で伝えていた。
- ・宿泊を伴う行事を実施した際に、宿泊先で先生や児童・生徒に発熱等の体調不良が生じた場合、従前どおりの対応ができるのか、また、発生した時の児童・生徒の不安や

保護者に宿泊施設まで迎えに来ていただく事、管轄する保健所等との調整や学校側の混乱等を考えると、実施する判断が出来なかった。

- ・豊中市では、これまで途切れる事無く修学旅行を実施してきたが、今回実施しないと、保護者や子ども達への影響は相当にあると考えられることから、代替案として、日帰りとなるが充実した体験旅行を実施することとし、近場であれば、体調不良者の発生等何かあった時は、これらの対応が出来ると判断し決定した。

5. 事前質問の回答及び質疑応答

1) 各PTAから出た事前質問等及び直接教育委員会にあった意見について

以下の3点について問い合わせがあった。

①他市はまだ検討中の市町村もあるが、6月末の決断は早いのではないか。

子供達の安全、特に、宿泊先でコロナに感染した時にどう対応できるのかが最終的な判断となった。他市とは判断のポイントが違い、豊中市としての判断をおこなった旨、説明があった。

②近隣他市は修学旅行等の宿泊を実施すると聞いているが、豊中市だけ中止の決定は不公平ではないか。

市教委から、豊中市の各小中学校の児童・生徒数が他市に比べても多いため、感染リスクに鑑み中止とした旨、説明があった。

③豊中市内一律の決定ではなく、学校独自に校長の判断で実施できないのか。

今回の修学旅行等の宿泊を伴う行事は中止としたが、体験旅行については、各学校の判断に任せている旨、説明があった。

2) 広島に行っている小学校の平和に関する修学旅行の趣旨について

市教委から、基本は学校毎にどういう目的を持って修学旅行を実施するかを任せているが、豊中市は人権を大切にす街との趣旨から、全ての小学校が平和教育を学びに広島に行っている。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況に鑑み、修学旅行等の宿泊を伴う行事に代わるものとして、近畿圏でなんとか代わりになるものを探すのか、子ども達の意見を聞き取りながら、学校側で考えてもらいたいと思う。ただし、学校教育課が窓口になるので、学校現場の管理職と連携して取り組んでいきたい旨、説明があった。

3) 市教委の対応について

役員から、今回の通知は、市教委の責任等各学校の校長に丸投げではとの意見がある旨、発言があった。

これに対し、市教委から、以下のとおり説明があった。

- ・今回の保護者あての通知に連絡先、学校教育課の教育課程係を入れている。ご意見等については当該連絡先へ入れてほしい。市教委側で説明をする。
- ・先ほどの市教委に入った意見以外で把握しているものは、「子ども達に対してどのように謝罪をするのか」との意見が届いているが、一方で「決断をして頂いて良かった」

という意見もあった。

- ・今後も、連P役員の方に問い合わせが入っても当然答えられないので、市教委事務局に連絡いただければ、当該対応は市教委で行う。また、学校長や管理職に入った話も、そこから市教委の方につないでもらうことも可能である。

また、役員から、今回の通知について市教委から事前に連Pや単Pに相談がなかったとの発言があり、このようなやり方では今後の関係性にも影響が出かねない状況である旨、報告があった。

6. 今後の対応について

1) 連Pと市教委との連携について

市教委から、子ども達若しくは教育行政のことについて、市教委と連Pとで情報共有ができる場の構築や、連Pから出た意見等の検討等、今後の連携は何らかの形で必要であると、吉田会長と本情報交換会前の事前打ち合わせにおいて打ち合わせた旨、説明があった。

吉田連P会長から、過去はともかく今回の件も含め、事前に連Pに相談があれば役員で協議などを行い、ある程度納得をした上で各小中学校のPTA会長に周知することで対応はずいぶん違っていたと思う。ここにいる役員は全て今回の対応に追われており、受けた質疑・苦情等をどこに相談等すればよいのかさえ判断できない状況であった旨、発言があった。

2) 連Pとの情報交換会の開催について

連Pから、今回の修学旅行等の宿泊を伴う行事の中止は連Pに事前の相談も無く保護者宛に通知されているが、今後種々の事を進めていく上で、双方の情報交換・共有が必要であると考えため、定期・不定期を問わず必要に応じて情報交換会の開催が必要である旨、要望があった。

これに対し、市教委から、情報共有・情報交換をやっていきたい旨、回答があった。

7. その他

1) 運動会について

市教委から、運動会における団体競技の実施について、以下の説明があった。

- ・運動会についての記載で団体演技を中止とある。様々な場面が想定されるが、密になる団体演技についてしない。ただ、団体競技についても工夫次第で出来ることを検討し、様々なことをしてほしいということを学校に伝えた。
- ・各学校の生徒数児童数やグラウンドの広さはバラバラなので実態に即した形で実施してほしい。何もできないということではではない。

2) ギガスクールについて

市教委から、当初ギガスクールの整備を5年計画で進める予定であったが、1年ですすめることとなった。中3、小6の順番に整備し、今年度末には小学校1年にも配っていくこととし、当該スケジュールを紙媒体で各PTAに周知して、ICTを使った取り組みを同じ方向性で進めていきたい旨、発言があった。

役員から、ICTの実施にあたり、先生の中で顔出しNGの方がいらっしゃる。子ども達を教える立場の人間が、教えるにあたり顔出しNGというのはいかがなものかと考える。このような事例もあることを情報共有させていただいた旨、発言があった。

連P会長から、ギガスクールのことも連P役員にお伝えしたが、大阪府のPTAの方に行かせていただき、豊中市がどんな状況なのかインターネットで調べたところ、市長を中心にごくまとまって話を進めているのが市HPに載っており、豊中市もこうして進めているのだと思いました。そういうところもよい情報だが、今までそういった情報のやり取りがなかった事に驚いている。せっきくの連Pなので、市教委がもっと連Pを活用してくれたら僕らはどんどん各単Pへ情報共有していく。そうすると現場の単Pの会長さんも連Pを担っているブロック長も助かるので、ぜひたくさん情報を共有していただきたいとの発言があった。

3) 連Pについて

- ・役員から、ブロック内の全校でPTAの会員から「連Pとは何か」についてアンケートを実施している旨、報告があり、集計途中ではあるが、豊中市との連携や他の小学校との交流、情報交換が連Pの在り方ではないか等の意見がたくさんあった。私の学校はプロジェクト制をとっており、毎年PTAが存続するかを問うている。今後、連Pの会議を定期的で開催し、具体的にどう動いて行くか等について会員に伝える事により、連Pの存在意義が示せるものと考えている旨、説明があった。

- ・役員から、以下の発言があった。

去年度ブロック長をしたが、連Pは無くてもよかったと思う。正直全く意味のない会と思いながら1年過ごした。このような情報交換会もなく、毎年やる宴会や研究大会のために集まり、各単Pが困っていることや保護者の意見を市教委に伝える機会もなく、議案を収集することもなく、単Pの運営委員会の方が議論されているのではないかと感じた。その結果、保護者の方は市教委に対して全く信頼はない。今回コロナのことで余計それが大きくなったと感じる。意見や問い合わせを学校の方にして市教委の指示がないと動けない。

「他市は関係ない」ではなく、いいところは他市を真似したほうが良いと思う。子どものことを考えて良くしようと思うのであればそういうことは必要だと思う。

今回の市教委から配布された文書を見る限りでは、市教委が何か考えているように思えない。決断が早すぎるのもある。もうちょっと考えられるのではないのかと言う意見が多い。

豊中市はホームページの中で全学校広島に行きますとうたっている。子どもからは、原爆資料館が怖すぎて毎年泣く子もいるが、一生懸命教えてもらう中で、広島に行け

なくて残念だという声があり、そういう話も事前であれば何かできたのではないかと、そういうための会であればということを感じる。

今日も 1 日、保護者の方からの対応をしていた。毎年プール開放で予算があったと思うが、今緊急で熱中症っぽい子も出ているという話がある。とりあえず P T A の方で緊急的に学年 20 本の水を入れ、足りなくなったりした子どもには、補充してほしいという話を明日の職員会議で先生達にお願いしようと思っている。教育委員会でプール開放事業の予算で対応するなど、夏休みの期間に入っているのだから、そういうことも考えほしい。

- ・教育委員会から、今の水分の部分については、前向きに取り組んでいきたい旨、回答があった。
- ・連 P 会長から、以下の発言があった。

連 P 会長という立場をはずして個人的な意見で言うと、僕自身はこんな状況なので自分の子どものことを考えたら豊中市の判断は間違っていないと思うし、豊中市や現場の校長先生が決めたことであればそれに従う。

あるというのが当たり前ではないという事をわかってくれたらこれも教育だと思う。豊中市の子どもに、今後の成人式で、市長や教育委員会からあの時我慢してくれてありがとうの一言が、そういった形でねぎらいや、卒業式でも一言かけてくれれば彼ら・彼女らも救われると思う。

やるんだったらしっかりと現場の P T A の会長の役に立てるようなチームにしたい、役員の皆さんは熱い方ばかりで教育のことを熱心に考えている。P T A と教育委員会と一緒に進んでいかなければならない。こんな時期だからこのメンバーが集まっていると思っている。個人の思いとして教育委員会と両輪として一緒に諸活動を回していきたいと思っている。

